

東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓 ～命をいかに守るか～

日時: 2015年3月14日土曜日 17:00-20:00
場所: 東北大学川内北キャンパス C202号室

近年の台風・洪水災害の規模・頻度が増加している。特に、『2011年タイ大洪水』、『2013年ジャカルタ洪水』、『2013年フィリピン台風ハイエン』の被害に代表されるよう東南アジアでの水災害が顕著である。本シンポジウムの目的は、上記代表的な災害の被害拡大要因、問題・共通点等を明らかにし、今後の減災に向けた対策等を世界に提言する事である。また、防災普及啓発活動により5000名の人命が救われたインドネシアのダム湖決壊事例や最新の防災に向けた研究成果を紹介する。

講演者および講演題目:

- 17:00- 開会挨拶とセッションの概要
真野明教授, 呉修一助教(東北大学災害科学国際研究所)
- 17:10- 台風ハイエンの被害拡大要因と得られた教訓
Dr. Quimpo Maritess (フィリピン公共事業省)
- 17:35- ビルドバックベターに向けて、タクロバン市の取り組み
Mr. Gerald Paragas (フィリピン・タクロバン市)
- 18:00- 近年のジャカルタ洪水から得られた教訓
Dr. Mohammad Farid (インドネシア・バンドン工科大学)
- 18:25- インドネシア国ワイエラ川天然ダム崩壊から5000人を救った防災普及啓発活動(概要と教訓)”
徳永良雄上席研究員(ICHARM,(独)土木研究所)
- 18:50- 人工衛星情報を活用した洪水予測技術の導入ーフィリピン・カガヤン川の事例ー
宮本守研究員 (ICHARM,(独)土木研究所)
- 19:15- 水資源開発と治水のはざままで ～タイ国チャオプラヤー川流域～
手計太一准教授 (富山県立大学)
- 19:40- 全体のまとめ
呉修一助教 (東北大学災害科学国際研究所)

連絡先: 呉 修一
kure@irides.tohoku.ac.jp
+81-(0)22-752-2112